

厚生労働科学研究費補助金  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
分担研究報告書

Global Health Diplomacy Workshop

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	坂元 晴香	東京女子医科大学 国際環境熱帯医学講座 准教授
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	石塚 彩	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 特任研究員 (2021年8月末まで)
	齋藤 英子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 上級研究員

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

令和3年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および10月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および対面式の演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、公衆衛生上の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに対面式演習を行った。対面式演習は、国際会議で効果的な介入を行うための実践的なスキル習得のために、模擬世界保健総会方式で介入の演習を実施し、架空の議題をテーマに、決議案を含む会

議文書の読解、対処方針の検討、交渉と会議での発言を、ロールプレイを通じて演習を行った。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者15名が集まった。加えて、将来グローバルヘルス外交を担う医学部、公衆衛生大学院の学生など25名がオブザーバー参加した。新型コロナウイルス感染症下ではあったものの、感染対策を十分に講じた上でワークショップをオンラインと対面形式のハイブリッドで実施し、参加者間や講師との交流をできるだけ可能とするべく対策を講じたところ、研修参加者の反応は好評であった。

## A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題および日本を含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入方法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウィズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化の中で、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

## B. 研究方法

### 1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入

し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

対象は行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、シンクタンクなどから、国際会議の経験を有する、あるいは参加予定であるが、国際会議の経験に乏しい官民の中堅・若手実務者を対象とする。また関連領域の大学院生および大学生を含む 30 名を上限とするオブザーバーも聴講者として参加する。

ワークショップは以下 7 点を目標に、タイ政府、日本政府および研究班分担研究者から講師を招いて、パブリック・スピーキング、交渉、効果的な介入、交渉が困難な保健課題のケーススタディなど国際保健外交に関する講義と演習のプログラムを構成する。

- (1) 国際機関（国連・国連の専門機関・パートナーシップ）におけるガバナンスの意味を理解する。
- (2) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (3) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (4) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (5) 国際会議の意思決定に自らの主張を反省させる技法を習得する。
- (6) 国際益と国益を調和させる姿勢を

涵養する。

(7) 国際会議の暗黙知を共有する。

## 2. ワークショップの評価

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得る。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図る。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外であった。

## C. 研究結果

令和3年12月18日～19日の二日間にわたり、感染対策を十分に講じた上で、オンラインによる講義および対面での演習を交えたハイブリッド形式でのワークショップを開催した（プログラム詳細は参考資料「Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview」を参照）。参加者は15名、オブザーバーは25名であった。

国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの歴史の講義の後、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義が実施された。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディに関するオンライン講義が実施された。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）

や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬WHA方式で介入の演習を実施した。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。参加者は、数名ずつのチームに分かれ、各国の代表団（日本、米国、ドイツ、インドの4か国）として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査（表1～2、講師回答を含む）では、大半の参加者から「難しかった」「普通」といった回答が得られ、本ワークショップ演習の手応えを感じていたようであった。また参加度（表3）についても、ほとんどの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた気づきについてのコメントでは、表現の仕方や事前資料の読み込み、対処方針の重要性といった実務的な内容に加え、背景や国益等各国のスタンスの真の意味での理解、課題についての専門的な理解、国情の事前精査、他国との関係性を作ることなど、より包括的かつ専門的な気づきが多かったとの回答が多く見られた。改善点（表5）では、ワークショップ中の休憩時間の必要性やネットワーキングの時間を設けてほしいという希望があったため、次回以降対応していく予定である。

#### D. 考察

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの講義と対面での演習というハイブリッド形式でのワークショップ実施を試みた。対面形式での演習を取ったことにより、参加者間および参加者と講師のやりとりが積極的に行われ、参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できた、細かいニュアンスを学ぶことができた、という意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年実施していくことが望ましい。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他

該当なし

#### 参考資料

1. Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview (ワークショップ概要)

表1. 参加者/オブザーバー属性 (回答アンケート)

		Number	Percent
Age range	20-29	9	33%
	30-39	14	52%
	40-49	2	7%
	50-59	2	7%
	60 and over	0	0%
Sex	Male	7	26%
	Female	20	74%
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	8	31%
	No experience	18	69%

表2. 各セッション難易度 (%、演習参加者のみ回答)

	Number of Respondents*	Very Difficult	Difficult	Medium	Easy	Very Easy
Team deliberation	16	6.3%	25.0%	50.0%	12.5%	6.3%
Bilateral meeting roleplay	16	12.5%	56.3%	31.3%	0.0%	0.0%
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	16	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%
Mock-up Session (Working Group)	16	31.3%	37.5%	31.3%	0.0%	0.0%

\*講師 1 名を含む

表3. 各セッション参加度（%、演習参加者のみ回答）

	Number of Respondents*	Weakly participated	Somewhat participated	Actively participated
Team deliberation	16	6.3%	18.8%	75.0%
Bilateral meeting roleplay	16	6.3%	50.0%	43.8%
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	16	18.8%	43.8%	37.5%
Mock-up Session (Working Group)	16	6.3%	43.8%	50.0%

\*講師 1 名を含む

表4. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから得られた気づきについて（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	国際会議に行く前の日本での下準備、事前のバイ協議での情報収集や根回し。会議本番では、最初は強めに我が国のポジションを伝えてみて、ここまでなら譲歩できるという落としどころを決めておくことなど、本当に多くの手法を得られました。
2	自分のポジションを理解する事も大事ですが 相手側のポジションを想像する、予想する事が大切だと思いました。
3	To research the situation of the nation we represent. To make the message clear and short.
4	情報収集、相手国のコンテキストを理解する、BTNA(妥協できる代替案)を持つておくなど事前の打ち合わせをしておく
5	良く、相手の話を聞くこと。話し方に気をつけること。意見として述べた場合でも前提がまったく異なる参加国もたくさんいるので、同じことを伝えるにも表現ぶりにはケアをするべきと実感しました。
6	事前のバイ協議の重要性。
7	どの国にとっても平等になる路線で妥協点を見つけることの重要性
8	各国代表団員及び事務局員との信頼構築。入念な事前準備
9	事前の根回し・各国の立場探りの重要性と、自国の利益を追求しつつも全体を俯瞰して良いプロポーザルを作ることの重要性、また主張を行う上で言葉の表現に気をつける必要があることなどを学びました。貴重なワークショップに参加することができ有り難く存じます。
10	国際会議の内容として、声明文作成に係る作業について知見を深めることができた。特に保健外交については教科書的な理解としては、どうして反対する国があるのかどうか意識を払いにくく、今回のワークショップは非常に有益でした。
11	資料精査、エビデンス収集の必要性。自国の現場だけでなく、その他の国にも当てはまるように説得性を持って説明する方法
12	資料精査の必要性、また担当国及び他国の状況の把握、及び応答の予想、有効な介入方法
13	譲歩できる案について協議する場の必要性(あるいは議長案)
14	Know the diplomacy language, negotiating before the meetings, English language proficiency, and knowing the data of your country and worldwide, and knowing the current measures taken in that agenda.
15	言葉遣いや他国の立場の尊重の有無によって印象が大きく左右されることを体感しました。
16	事前のバイ協議を含めた情報収集や根回しと、それに基づく戦略

表5. ワークショップ改善点（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	コーヒーブレイクなどの時間を利用して..というのが本番だと思うのですが、せっかくなので参加者や開催者の皆様の自己紹介の時間があるとなおよかったです。どういう経緯や背景、モチベーションでこのワークショップに参加しているかなど。
2	2日目の午前中のセッションですが、準備を再考しても良いように思いました。実務的内容は固めて聞いた方が良いように思いました。
3	セッション用に、有用なワードリスト(反対するとき、賛成するときの話し出しなど)を一枚紙で配布するといいたと思う。
4	ありがとうございました。学んだことを実践する場がなかなかないので練習する場が今後もあると嬉しいです。講義資料をいただきたいです。
5	短い昼休みで昼食をとり、かつ会場までの移動が大変だった
6	初日の午前中に1回ブレイクがあると良いかと思いました。他は問題ございません。
7	外交については、講義形式であっても、対面でのほうがよりスキルやご経験を細部まで学べるように思いました。
8	グループメンバーに同じ組織の人が集められており、もう少し違う組織の方とネットワーキングしたかった。
9	事前資料と共に今回のロールプレイの流れ、及びどのような準備が必要かの共有が欲しい。
10	決定案の修正をしやすいようにチャットボックスに記入するよう促進すること(実際でも行われている)
11	Set requirements for the level of English language for the participants. Limiting the number of letters in each slide for the presentation (there was a presentation with too many words and it was hard to concentrate or understand well).
12	特にありません。ウェビナー、ワークショップ共に実践的でとても勉強になりました。二日間ありがとうございました！



## Global Health Diplomacy Workshop (2021): Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 18 December 2021 Online (9:00-11:40) & On-Site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign-in on zoom online	
9:00-9:30	*Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
9:30-10:25	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture)	Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
	*Q&A in Japanese	
10:25-10:45	*Overview of global health diplomacy (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert & Dr. Attaya Limwattanayingyong (Thailand)
10:45-11:40	*Preparing for WHA and drafting of interventions 1 (lecture)	Dr. Warisa Panichkriangkrai (Thailand)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 2 (lecture)	Dr. Yui Sekitani (Japan)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 3 (lecture)	Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
	*Q&A in English/Japanese	
11:40-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-15:40	Team deliberation (50 min)	Group facilitators
	Bilateral meeting role-play (60 min)	
	Team deliberation (35 min)	
15:40-16:00	Break	
16:00-16:40	*Mock-up Session (Plenary #1)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:40-17:00	Team deliberation	Group facilitators

Day 2, Sunday, 19 December 2021 Online (8:50-11:30) & On-site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	*Recap of Day 1 (Online)	Dr. Eiko Saito
9:00-9:30	*Using global health platforms and diplomacy to drive national interests (lecture)	Prof. Yasushi Katsuma (Japan)
	*Q&A in Japanese	
9:30-10:25	*Introduction to negotiations (lecture)	Mr.Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
	*Q&A in English	
10:25-10:35	Break	
10:35-11:30	*Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture)	Dr. Satoshi Ezo (Japan)
	*Q&A in English	
11:30-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:20	Team deliberation	
13:20-15:20	*Mock-up Session (Working Group)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:20-15:45	Break	Networking
15:45-16:30	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:35-17:00	Wrap-up	Prof. Hiroyasu Iso

**\*Sessions online by zoom**

**Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)**

**■Speakers and Resource persons' list**

Dr. Suwit Wibulpolprasert (タイ)

Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand

Dr. Attaya Limwattanayingyong (タイ)

Communicable Diseases Division, Department of Disease Control, Ministry of Public Health, Thailand

Dr. Warisa Panichkriangkrai (タイ)

International Health Policy Program (IHPP Thailand), Thailand

Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (タイ)  
Ministry of Foreign Affairs, Thailand

Dr. Satoshi Ezoë 江副聡(日本)  
Ministry of Foreign Affairs, Japan  
外務省 国際協力局国際保健政策室長

Dr. Yui Sekitani 関谷悠以 (日本)  
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan  
厚生労働省 国際保健管理官

Prof. Kazuaki MIYAGISHIMA 宮城島一明 (フランス)  
Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan  
長崎大学 熱帯医学研究所 客員教授

Prof. Hiroyasu Iso 磯博康 (日本)  
Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)  
国立国際医療研究センター(NCGM) 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) センター長

Prof. Hiroki Nakatani 中谷比呂樹 (日本)  
Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM  
NCGM グローバルヘルス人材戦略センター(HRC-GH) センター長

Prof. Yaushi Katsuma 勝間靖 (日本)  
Director, Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科研究科長

Dr. Tamami Umeda 梅田 珠実 (日本)  
Visiting researcher, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 客員研究員

Dr. Hidechika Akashi 明石秀親 (日本)  
Director, Department of Health Planning and Management, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 運営企画部 部長

Dr. Kenichi Komada 駒田謙一 (日本)  
Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM  
NCGM 国際医療協力局 医師

Dr. Haruka Sakamoto 坂元晴香 (日本)  
Associate professor, Department of International Cooperation and Tropical Medicine, Tokyo Women's Medical University  
東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座 准教授

Dr. Mariko Hosozawa 細澤麻里子 (日本)  
Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 主任研究員

Dr. Eiko Saito 齋藤英子 (日本)  
Senior Research Fellow, iGHP, NCGM  
NCGM 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター(iGHP) 上級研究員  
NCGM Secretariat will also participate to assist the operation during the workshop.